



オリーブ便り Olive News

2019.03.01

No. 417



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

基本理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

定年退職を迎えて

香川大学医学部附属病院 看護部長 豊嶋 克美



昭和58年10月附属病院開設に合わせて8月に愛媛大学医学部附属病院から赴任し、35年間勤務させていただき、この平成31年3月末で定年を迎えることとなりました。昭和58年10月開設時に入院患者さんが1人で、深夜勤務をした日が懐かしく思い出され、ここまで大過なく過ごせたことは、大学内外の関係者各位のご指導、ご支援によるものとお礼申し上げます。

この35年間には、7病棟・外来・救命救急センター・医療安全管理部と多くの部署を経験いたしました。その中でも、平成14年4月1日、安全管理室の設置に伴い初代GRM(専任リスクマネージャー)として2年間組織横断的に職員の皆様と関わり、自己の未熟さを痛感しながらも院内の安全管理体制の整備、安全文化の醸成に取り組みました。その後、平成22年から4年間4代目GRMとして勤務し、多くの皆様のご指導ご支援により無事に任務を果たすことができ、大変感謝しております。

看護部長としての2年間は、「共に学び、共に考え、共に実践する」を信念に、先々を見据えた取り組みを責務と捉え、看護の質向上と診療報酬で評価される「看護の力」を発揮できる環境を整備することに力を注ぎました。現在、達成途上ではありますが、次世代にバトンを繋ぎたいと思います。

引き続き、新看護部長・看護職員に対してご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、香川大学医学部附属病院のますますの発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。

出会えたことに感謝を込めて

香川大学医学部附属病院 看護師長 藤本 さとし



3月末で36年間の大学病院看護師としての勤務を終えようとしています。この間に多くの患者さんと出会い叱咤激励されながら色々なことを学ばせて頂きました。

なかでも外来勤務の16年間の間には、緩和ケア・事例検討会、糖尿病教室、糖尿病患者の療養指導体制等の立ち上げや運営を行ってきました。また、平成23年からは地域連携室に異動となり、退院支援体制の確立や地域医療機関と顔の見える連携を構築してきました。

様々な事にチャレンジしてきた中では思うように事が進まず失敗して落ち込んだこともありましたが、そんな時に暖かく見守り励まして頂いた先輩や同僚また、惜しみない協力をして頂いた

多職種の皆様に深く感謝申し上げます。

社会はまだまだ激動の中にあり、大学病院の役割は重要性を増していきます。「ささえる、つながる、リードする」香川大学医学部附属病院であり続けてほしいと願っています。

時の移ろい

香川大学医学部 事務部長 白川 博章



私は昭和57年4月に香川医科大学に採用されました。当時、職員数は140数名、日々、病院新営工事の轟音が響きわたっていました。あれから37年、雌伏の時を経てリニューアルされた新病院が威風堂々とそびえ立っています。国の機関から法人へ、病院長は9代目、教授の多くが3代目です。しかし、病院の理念はこの地に脈々と着実に受け継がれています。皆様のおかげで、この地で定年を迎えることは本当に幸せです。喜怒哀楽、様々な思い出が走馬灯のごとく脳裏を駆けめぐります。何故か私には絶え間なく無理難題がやってきました。でも、逃げたことはありません。私の自慢は広島大学探検部で辺境の地を駆け巡り、就職後は怪我もなく

本学野球部、バドミントン部で現役を続けられたことです。まさに「無事これ名馬」ですか。最後に、「やってみなはれ。やらなわからしまへんで。」サントリー創業者、鳥井信治郎、「老兵は死なず只消え去るのみ。」マッカーサー元帥

写真左:第1回全国500歳野球大会(平成29年7月秋田県大仙市)
写真右:平成30年度中四国職員バドミントン大会優勝



診療科長の横顔

座右の銘、ポリシー

チーム医療には信頼関係、教育には愛情が必要です。患者さん、学生、教室員に対して、家族のように愛情をもって接していくつもりです。

家族のようになれば全てに優しくなれると思いますし、愛情を持って接するとその想いは周りにも広がると考えています。最終的には、地域医療の発展が全ての患者さんの笑顔に変わる。そんな夢を持った人材を育てることが目標です。どうぞよろしくお願いいたします。

診療科紹介

網膜硝子体手術の多い施設として全国的にも有名で加齢黄斑変性の診断機器も充実しています。また緑内障手術と基礎研究の実績もあり、スタッフの人数は多くはないですが、それぞれがプロフェッショナルの自覚をもって働くプロ集団です!



香川大学医学部
眼科学
教授 鈴木 潔

師長の横顔

病棟紹介

東病棟6階は、眼科、皮膚科、整形外科3科の混合病棟です。眼科は年間1000件を超える白内障・緑内障・網膜剥離などの患者の手術を行っています。高齢者が多く在院日数が短い中、術前後の生活指導や点眼など工夫を凝らしながら専門性を発揮しています。皮膚科はあらゆる皮膚病変のスキンケアや手術、整形外科は骨・運動器疾患の術後リハビリ期の患者の治療、看護を行っています。

病棟の中では、ベテラン看護師が多職種と上手に連携し、安心・安全な療養環境を提供しています。

入院患者が高齢化、多様化する中、私たちは「患者の持つ力を信じて、その力を引き出す看護」をモットーに、患者さんが元気に、もといいた生活の場に帰れるよう日々奮闘しています。



香川大学医学部附属病院
東病棟6階
師長 森 初音



眼科スタッフ 集合写真



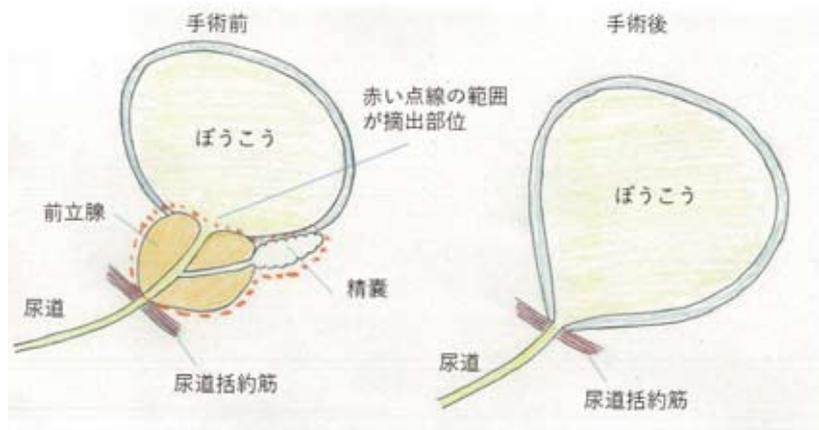
東病棟6階 集合写真

尿失禁に悩んでいる患者様へ 人工尿道括約筋という選択肢

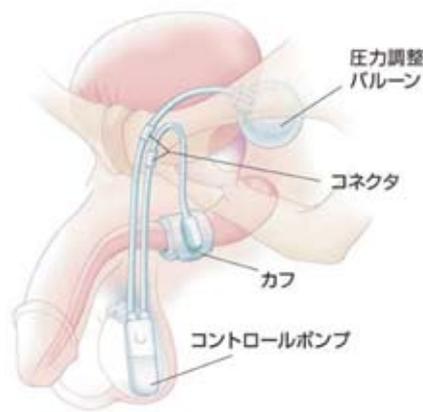
香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科 講師 常森 寛行

厚生労働省が発表した2016年のがん患者統計で、香川県は人口10万人あたりの前立腺がん患者が全国で2番目に多いことが判明しました。その要因の検証はまだされていませんが、検診率の高さなどが背景にあると思われます。検診によって早期に発見された前立腺がんの治療方法としては、監視療法、ロボット手術、小線源治療、放射線外照射療法などがあります。それぞれどの治療方法を選択するかは、がんの広がりや悪性の程度、転移の有無などによって異なってきます。がんが局所にとどまっている場合は手術を選択される方も多く、香川大学医学部附属病院でもロボット支援下前立腺全摘除術を数多く行っています。手術では前立腺及び精嚢を摘出し、その後膀胱と尿道をつなぎ直したのち、尿路を再建します(図1)。手術後は、ほとんどの方が尿漏れを経験しますが、その多くは、数ヶ月から半年程度で改善するといわれています。しかしながら5-10%の方に、その後も尿漏れが続くといわれています。尿漏れの原因として、尿道を締める尿道括約筋の障害や、膀胱機能の問題などがあげられます。前立腺全摘術後より1年以上たっても重度の尿漏れが続く場合は、お薬などの治療では改善が見込まれません。このような方には人工尿道括約筋埋込術が最も効果的な治療方法です。人工尿道括約筋は平成24年4月より保険適応となりました。全身麻酔で行いますが、手術は1-2時間程度で数日間の入院が必要です。

人工尿道括約筋は尿道の周りにシリコン製のチューブを巻き付けその中に液体を充填することで尿道を圧迫し、尿失禁を治療します。人工尿道括約筋は3つのパーツに分かれています。尿道を圧迫する部分、液体を貯留しておく部分、陰嚢内に設置して尿道括約筋を動かすスイッチとなる部分です(図2)。このうち、尿道の部分に尿道のサイズに合わせたカフを埋込みます。手術を行った後には6週間程度尿道括約筋をゆるめたまま作動させないで尿道になじませる必要があります。これを行わずに早期から装置を動かした場合には尿道の萎縮や炎症による括約筋の尿道内への脱出が起こりやすいといわれており、最悪の場合には摘出や再手術が行われる場合もあるので必ず守る必要があります。手術後、尿道カテーテルは通常手術翌日に抜去します。そのため、約6週間後にスイッチを作動させるまでは、これまで通り尿は漏れている状態が続きます。スイッチを作動させた後は、尿意を感じるたびに自分で陰嚢内に設置したスイッチを押すことによって排尿できるようになります。排尿後は再び尿道に巻き付けたカフが自然に膨らみ尿道を締めることで尿失禁を予防できます。これまで人工尿道括約筋の手術成績の報告は多くあります。代表的な報告では、術後3年でパッド使用が1日1枚以内となる割合が96%、そのほかのグループの報告では6.5年の経過観察で88%の成功率との報告も見られます。いずれにしても高い有効率ではありますが、必ずしも100%の有効率ではなく、一部には効果が見られない方もいます。この手術は、前立腺肥大症の手術の後でも適応となります。手術後の尿漏れに困っている患者さんはこの機会に一度泌尿器科医にご相談ください。



(図1) 前立腺全摘術前及び術後の模式図



(図2) 人工尿道括約筋の仕組み (Boston Scientific社HPより)

イキイキさめき健康塾
香川大学医学部附属病院 医療セミナー



詳しくはこちら

病院ボランティアさんに感謝状を贈呈しました。

香川大学医学部 医事課

平成30年12月3日(月)、管理棟3階特別応接室において、ボランティア感謝状贈呈式を執り行いました。

本院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、受付補助、院内誘導案内、小児病棟における小児レクリエーション等をボランティアの皆様にお世話になっております。

表彰対象者は、本院でのボランティア活動を継続して10年以上かつ通算500時間以上または通算1,000時間以上にわたり率先してボランティア活動にご尽力いただいた方を対象として、今回は6名のボランティア活動員(安岡恵美子様、杉谷久代様、長江陽子様、梶ヶ谷眞智子様、丸山恵美子様、香西淳子様)の皆様へ、豊嶋副病院長から感謝状の贈呈がありました。

本院では、今後もボランティアの方々のご協力をいただき、地域に開かれた病院を目指し、患者サービスの向上に努めてまいります。



臨床研究に関するご案内

香川大学 医学部倫理委員会委員長
香川大学医学部附属病院 治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H31.3~4月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
3/10 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- ロボット手術は素晴らしい! ~手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん・腎臓がん・膀胱がん手術~	総務課	(087)891-2008
3/14 木	14:00~16:00	臨床講義棟1階	がん患者サロン特別講演 ~音楽療法~	がん相談支援センター	(087)891-2473
3/14 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
3/28 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と薬剤師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
4/13 土	16:00~19:00	レグザムホール	第64回日本皮膚科学会香川地方会	皮膚科学	(087)891-2162
4/14 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	胆管結石の内視鏡治療	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、大高(医療支援)、加賀宇(総務)、岸野(病棟)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、富田(経営)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、横井(情報)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]